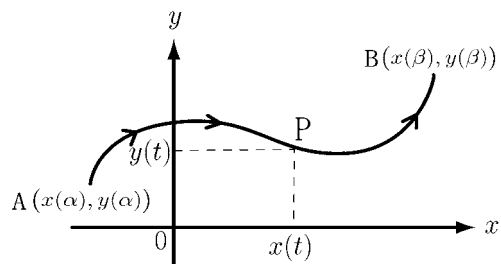


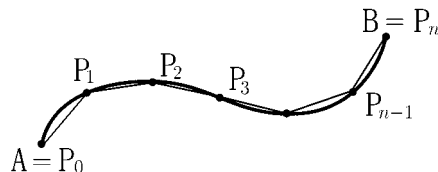
< 平面上の道のり 1 >

平面上を動く点 P の時刻 t における座標が $P(x(t), y(t))$ であるときこの点が時刻 α (位置 A) から時刻 β (位置 B) までに動いた道のり l を求めたい。時間区間 $\alpha \leq t \leq \beta$ を n 等分した分点を



$$\alpha = t_0 < t_1 < t_2 < \cdots < t_{n-1} < t_n = \beta$$

とおき, 時刻 t_k の位置を $P_k(x(t_k), y(t_k))$ とし, $A=P_0, P_1, \dots, P_n=B$ の各点を折れ線で結んで l を近似とする。折れ線の長さを l_n とすれば



$$l_n = \sum_{k=1}^n \overline{P_{k-1}P_k} \quad , \quad \overline{P_{k-1}P_k} = \sqrt{(x(t_k) - x(t_{k-1}))^2 + (y(t_k) - y(t_{k-1}))^2}$$

である。ここで

$$\Delta t = t_k - t_{k-1} = \frac{\beta - \alpha}{n}$$

とおく。 $x(t)$, $y(t)$ が連続な導関数 $x'(t)$, $y'(t)$ をもつ場合は

$$x(t_k) - x(t_{k-1}) \doteq x'(t_{k-1})\Delta t \quad , \quad y(t_k) - y(t_{k-1}) \doteq y'(t_{k-1})\Delta t$$

と考えられるから

$$l_n \doteq \sum_{k=1}^n \sqrt{(x'(t_{k-1}))^2 + (y'(t_{k-1}))^2} \Delta t \quad (n \text{ は十分大})$$

とみなせる。そこで $n \rightarrow \infty$ のとき $l_n \rightarrow l$ と考えられるので, 定積分による区分求積法の定義から

$$l = \int_{\alpha}^{\beta} \sqrt{(x'(t))^2 + (y'(t))^2} dt = \int_{\alpha}^{\beta} \sqrt{\left(\frac{\partial x}{\partial t}\right)^2 + \left(\frac{\partial y}{\partial t}\right)^2} dt$$

が求まる。これが点 $(x(t), y(t))$ の $\alpha \leq t \leq \beta$ までの道のりの長さ l の公式である。